



大賀茂にお住まいの

藤原 海さん・美帆さんの

長女 ^{や え} 弥英ちゃん(0歳8か月)

姪 ^{ゆ り な} 優里菜ちゃん(4歳)

最近は大きな声を出せるようになって毎日お話をしているよ。
仲良しの優里菜お姉ちゃんだけど、大好きな父ちゃんと仲良くされると体を震わせて怒っちゃうんだよね。

みなさんのお宅のアイドルの写真を募集しております。市役所総務課へどしどしお寄せください。



下田市はあいさつ運動実践中 あいさつに みんなのえがおが あふれてる



下田人の息づかい

Vol.15

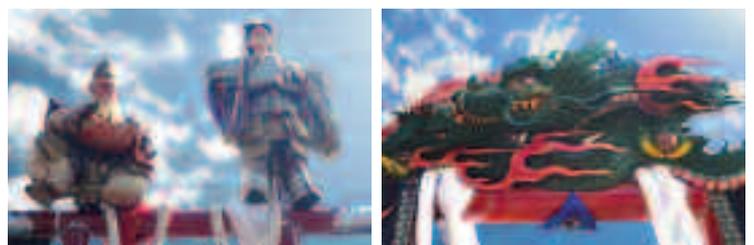
下田の人たちが昔から大切にしてきたもの。
そして、これから新たに大切にしていきたいものが「下田まち遺産」です。

下田太鼓祭り

〜まちの気風を示す太鼓台〜

太鼓祭りの歴史は、約400年前の江戸時代初期に遡ります。下田奉行の今村伝四郎が、長い戦乱と度重なる災害に疲れきった下田の民の心を元気にし、ひとつにまとめるため太鼓祭りを興したと伝えられています。

その様式は、大坂夏の陣に大勝した徳川軍が太鼓を打ち鳴らしながら行進した姿を模したものとされています。



七軒町の神功皇后

住吉区の龍神



下田人の想いを宿した太鼓台が集います

祭り当日、各町の若衆が打ち鳴らす太鼓台の上には人形が飾られています。

これは下田八幡神社の祭神である応神天皇とゆかりのある人物や、各町の生業、歴史、風物が反映されています。

例えば、七軒町は赤ん坊を抱くおじいさんと勇ましい女性の人形が飾られています。

これは神功皇后がお腹に子供を身籠ったまま海を渡って新羅の国を攻めた後、帰りの道中で子供（応神天皇）を出産し武内宿禰が抱き上げた故事を表現しています。

また、住吉区の龍は、大漁をもたらし、国土を鎮め、生命あるものすべてを護る神の象徴です。漁業を生業とした人々のうち、陸から海へ送り出す者、海に向かう者の祈りに似た想いを心に浮かべることができます。

今村公の下田の民への想いや昔の人々の想いは、各町の太鼓台に宿り、今もなお脈々と受け継がれるまち遺産です。

問合せ先 建設課都市住宅係
☎ 22219



「広報しもだ」は再生紙を使用しています



伊豆縦貫自動車道を早期完成しよう!!

「伊豆縦貫自動車道ロゴマーク」を利用して、伊豆縦貫自動車道の整備促進と活性化を県内外にPRしましょう!! ご利用方法については、以下の市ホームページをご覧ください。

■ 下田市ホームページ <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>